

アンラーン (unlearn)

～「知識」の価値が下がった時代に～

2022・8・26 重枝 一郎

2 学期も楽しく頑張りましょう！よろしくおねがいします！

今、「知識」の価値が下がっていると言われる。確かにスマホひとつで大量の「知識」を瞬時に手に入れることができる。そういう時代になった今、「学び」とは何になるのか。「学び」というと、新しい知識や情報のインプットをイメージする。それもあるが、多忙な日常の中で、新しいインプットもなかなか難しい面がある。しかし、「学び」はそうした新しいインプットがすべてではない。40代以上の先生方ならすでに知識や経験は十分蓄積されている。それを「学び直す＝振り返る」でいいと思う。

この『「学び」＝「学び直し」＝「振り返り」』には2つの目的がある。

1つは、これまで得た経験の一般化である。具体的な経験を“キリトリ”でなく、他の場面でも応用できるようにすることである。若い頃ならただの理論の知識だったが、経験と結び付けて考えられるようになる。そしてそれは、自分の強力な武器にもなる。知識が知恵になる瞬間でもある。だから「校長研修だより65号（仕事も「経験」のひとつ）」で書いたように、今やっている仕事は「経験」になる。経験を蓄積し、掘んだものを捨てずに振り返ることが「学び」を生成する。

もう1つは、1つ目と矛盾するが、「忘れる」ことである。誰しも長年の経験が一定の価値観の“とらわれ”になり、その結果、そのこだわりがこわばりを生む。そうなりそうな自分に気付くことが大事になる。これを「アンラーン (unlearn)」という。

この「アンラーン」をどうやってやるか。それには仲間という人的資源が必要不可欠である。その仲間も「職場外」＋「異なる年代」がいいといわれる。そういった意味で、先生方にとって私は、ちょっと変なおっさんでいいと思っている。でも、「職場外」＋「異なる年代」との付き合いもなかなか大変かもしれない。「何か学びを得よう」と意気込むより、まずは交流を楽しむことが大切かもしれない。

やる気は後からついてくる！（私の座右の銘）

下に、「アンラーン」チェック表を人から聞いた話で示す。

- 学校名、肩書を名乗らずに自己紹介をするのは苦手
- 携帯電話のアドレスがほとんど職場の人の名前
- 1ヶ月のうち、仕事関係者以外と会った人数は3人以下
- 何かをしなない言い訳に「仕事が忙しくて」とつい言ってしまう
- 「今日は仕事に行きたくないな」と思う日がある
- 「以前はこうだった」「こういう時はこうするものだよ」とすぐに前例を持ち出す

1つでも当てはまったら、アンラーンは必要ということらしい。おいおい！私はたくさん当てはまっている(笑)。たぶんアンラーンに不安を感じる人もきっといると思う。形成してきた価値観をリセットすると「自分が自分でなくなる」と怖くなる人も少なくないと思う。しかし、凝り固まった考え方を脱ぎ捨てて、柔軟さをもつ方が、まわりからの信頼を得ることができる。